

(様式1)

教 育 研 究 業 績 書

2023年5月1日

氏 名 奥山陽子

研 究 分 野		学 位		
老年看護学, 国際看護学		桜美林大学大学院老年学研究科老年学専攻 学位：老年学修士		
研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド				
高齢難聴者 難聴対策 補聴器のフォローアップ 高齢者のピアサポート 地域のネットワーク				
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事 項		年 月 日		概 要
1. 教育方法の実践				
1). 学生の理解を促進する教育活動		2010年10月から現在		
2). 国際的視点からの教育活動		2016年4月から		
2. 作成した教科書、教材				
1). 講義資料		2016年4月から現在に至る		脳血管疾患, 構音障害・失語症, パーキンソン病と認知症の疾患を持つ高齢者への看護の講義を担当し, スライド資料や図などを多くとりいれ, 学生が理解しやすい資料を作成・配布した.
3. 教育上の能力に関する大学等の評価				
4. 実務の経験を有する者についての特記事項				
3) 聖母訪問看護ステーションでの看護学生指導		平成26年6月～平成28年3月		・看護学生の同行訪問時は, 在宅看護の実践について学びを深められるように指導を行った.
5. その他				
1) 日本医療科学大学医療保健学部看護学科看護学生の国際学会ポスター発表の指導		平成30年5月中台科技大学		・看護学生4名の共同研究・発表の指導を行い, 台中科技大学の国際学会で発表を行った. 学生は台中科技大学の学生と学びを共有できる機会を持つことができた.
2) 日本医療科学大学医療保健学部看護学科 台中科技大学看護学科学生との交換留学		令和1年7月1日～14日 来校		・台湾の看護学生の交換学生6名・教員1名に様々なプログラムを実施し双方向交流拡大に向け積極的な意見交換を行うことができた.
3) 日本医療科学大学医療保健学部看護学科 台中科技大学看護学科学生とのオンライン交流		令和2年10月		・1・2年生を対象としたオンライン交流を8回実施した. 渡航が困難な状況の中での英語でのオンライン交流を図ることにより学生の学びに繋がった.
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事 項		年 月 日		概 要
1. 資格、免許 等				
・看護師免許 第388409号		昭和55年6月		
・はり師免許 東京都 第19861号		平成2年10月		
・きゅう師免許 東京都 第19703号		平成2年10月		
2. 所属学会				
日本老年看護学学会		平成22年4月～		
日本応用老年学会		平成22年4月～		
日本統合医療学会		平成22年4月～		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項		平成30～令和4年		
・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤C課題 番号26463467				テーマ「高齢難聴患者の対処行動を支援するための患者・看護師への研修の開発」について助成金3,640,000円を受けている. 研究代表者 森田恵子, 研究分担者 佐野智子・伊藤直子・奥山陽子・長田久雄・渡辺修一郎
4. その他 なし				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文)				
1) デンマークの高齢者に対する難聴対策と日本の課題ー聴こえのボランティアによる高齢者ピアサポートの重要性		2022年8月	日本応用老年学会	難聴は認知機能低下の要因となる。デンマークにおけるピアサポーターを日本でどのように活用するかを検討する。著者：森田恵子、佐野智子、杉崎きみの、伊藤直子、奥山陽子

2) 高齢被害者による語り部活動の開始・継続プロセス —新潟水俣病の事例— (査読つき)	共著	2018年3月	老年学雑誌第7号p1-16	新潟水俣病被害者の高齢者の語り部活動を事例とし、高齢被害者による語り部活動の開始・継続プロセスを明らかにすることにある。著者：奥山陽子、杉澤秀博、長田久雄。
高齢者疑似体験装具における身体的負荷量に関する検討	共著	2018年	日本医療科学大学研究紀要第11号 P. 59-68	健康若年者20名を対象とし、高齢者疑似体験装具「おいたろう」を用いた。著者：伊藤直子、大矢哲也、森田恵子、田島一美、奥山陽子、滝沢隆、小山英子
3) 地域在住高齢者における体位・頭頸部角度の違いと嚥下機能-唾液嚥下積算時間を用いて- (査読つき)	共著	2015年8月	応用老年学Vol.9 p73-81	高齢者の体位・頭頸部角度の違いと嚥下機能との関連を、3回の唾液嚥下積算時間を用いて検討した。著者：伊藤直子、森田恵子、太田淳子、蛭名小百合、奥山陽子、渡辺修一郎。
4) 高齢者の難聴自覚と受診との関連-客観的指標と主観的評価の比較から- (査読付き)	共著	2015年	日本心理学会第77回研究大会論文集 p411	高齢者が難聴を自覚すること及び耳鼻科受診行動について、客観的指標の聴力レベルと本人の主観的聞こえがどのように関連しているかを目的とした。著者：佐野智子、森田恵子、伊藤直子、奥山陽子、長田久雄。
5) 新潟水俣病の被害高齢者から見た語り部活動への参加の動機づけと継続要因 (修士論文)	単著	2015年9月 (平成27年)	桜美林大学大学院老年学研究科	新潟水俣病被害高齢者の語り部活動の動機づけと継続要因のプロセスを検討することを目的とした。著者：奥山陽子、杉澤秀博、長田久雄。
6. 高齢者の難聴自覚と受診との関連-客観的評価と主観的評価の比較から- (査読付き)	共著	2013年	日本心理学会第77回研究大会論文集 p411	高齢者が難聴を自覚すること及び耳鼻科受診行動について、主観的聞こえがどのように関連しているかを目的とした。 著者：佐野智子、森田恵子、伊藤直子、奥山陽子、長田久雄。
1. 国際学会発表				
1) .Effects of Elderly-Experience Kits on the Physical Test Results	共著	July, 2019	The 21st (IAGG)	
2) Use of pursed-lips breathing for clients with chronic obstructive pulmonary	共著	May, 2018	The 10th International Academic Conference 2018	
3) Effects of Mini Mental State Examination(MMSE) and Clock Drawing Test(CDT) readings-	共著	May, 2017	The 10th International Academic Conference 2017	
.Case Study on a Nursing Care of no physical restraints to a The Effect of Posture on the swallowing function of the	共著 共著	May, 2017 May, 2015	The 10th International World Confederation for Physical Therapy	
2) (国内学会発表)				
1) 転倒リスクのある認知症高齢者への援助-ポスターとナースコールを活用した指導	共著	2020年12月	第24回日本統合医療学会学術大会	
2) デンマークにおける難聴の研究・福祉の現状と日本の課題：研究施設の視察・難聴高齢者へのインタビュー結果から	共著	2019年10月	第14回日本応用老年学会大会	
3) 笑いヨガが認知症高齢者に及ぼす影響-DCM法を用いた実施前後の評価-	共著	2019年5月	第20回日本認知症ケア学術大会	
4) 認知症高齢者に非薬物的療法を用いたケアがMMSE・CDTへ及ぼす影響	共著	2018年10月	第22回日本統合医療学会学術大会	
5) 高齢者疑似体験装具が体力テストへ及ぼす影響	共著	2017年7月	日本老年医学会雑誌54巻、臨時増刊号p210-211	
6) 高齢入院患者が抱えている看護師とのコミュニケーションの問題	共著	2017年7月	日本老年看護学会第21回学術集会抄録集P162	
7) 指こすり音聴取検査の検討 -加齢性難聴のスクリーニング可能性について	共著	2014年6月	日本老年社会科学学会第56回大会 老年社会科学36(2)p281	
8) 高齢者の嚥下機能と姿勢との関連：3回唾液積算時間評価を用いて	共著	2017年9月	日本老年看護学会第21回学術集会抄録集P162	